

第44回言語文化教育研究学会月例会

日系カナダ人はいかにしてカナダ市民となったのか —多文化主義への移行期における市民運動から探る—

話題提供：秋山 幸さん

(早稲田大学大学院日本語教育研究科)

話題提供者は、1980年代以降に日本から渡加した人たちに縁があり、子どもの言語教育に対する意識を調査してきました。調査協力者らはよく日系カナダ人について、「どうやって生きてきたのだろう」と話します。自分や子どもの未来を日系カナダ人に重ね合せているように見え、自分自身も日系カナダの歴史に向き合ってみようと思うに至りました。

日系カナダ人の歴史は1877年に始まり、来年で150年を迎えます。この間、日系人はカナダ市民としての地位確立のために長い年月を費やしました。カナダ社会が、イギリス系市民を中心とした序列型から多文化主義へと変容を遂げるなかで、日系カナダ人は、「カナダ市民」像を当該地の人とともに模索し、市民運動を展開しました。

月例会では、ブラジルやハワイなどの日系人の歴史との重なりや異なりと合わせて紹介します。カナダに限らず、「日系人」は、その言語・文化・アイデンティティをめぐる、「日本人としての民族的表象と不可分」(山東, 2005: 139)にして語られることがあります。このような「日本人としての民族的表象」に比較して、日系カナダ人の営みはどのようなものとして捉えることができるか、そして、彼らの運動のプロセスからわたしたちは何を学ぶことができるかを考える機会となればと思います。

※山東功(2005). 1950年代のブラジル日系社会と日本語『阪大日本語研究』17, 139-157.

- ・日時: 2016年7月23日(土) 14:00-15:45
- ・会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 22号館8階会議室
- ・参加費: 無料
- ・予約: 不要(当日、直接会場にお越しください。)
- ・お問い合わせ: monthly@alce.jp (月例会委員会事務局)